

行政視察報告書

令和5年11月24日

会派名 江南クラブ
会派代表者 稲山 明敏

参加者：（伊藤吉弘、尾関昭、片山裕之、牧野行洋、土井紫）

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和5年11月13日（月）
視察時間	午前9時30分～午前11時30分
視察場所	瀬戸市役所、にじの丘学園（瀬戸市）
視察項目	小中一貫校「にじの丘学園」について ・午前9時30分～午前10時30分 瀬戸市役所にて、小・中学校合併時の経緯と現状の説明を受ける ・午前10時40分～午前11時30分 にじの丘学園にて、職員の方から新設校舎とそこでの教育の状況を見ながら、説明を受ける

行政視察報告書

■目的

日本全国で児童・生徒数が減少している。それに伴い、公立の小・中学校の合併が行われている。瀬戸市では、令和2年に5つの小学校、2つの中学校を小中一貫校へと合併し、にじの丘学園を新設した。それにあたり、地域の方への説明、広域に及ぶ児童・生徒の通学用の足と財源の確保、教員の新方針への対応・調整などを行い、児童・生徒からみて魅力的な新校舎を建設した。その経緯と予実における課題（児童・生徒数が新設当時と比較して160人ほど増加）などを知るために現地に視察に行った。

■内容

・午前9時30分～午前10時30分 瀬戸市役所

5つの小学校と2つの中学校を小中一貫にした経緯と、特に注意した点、財政、合併後の状況などの説明を受ける。児童・生徒減少下での学校統合の決断、事前準備での保護者・地域・住民への説明、通学路の整備、学校教員へのケア、新校舎建設における財源の確保（起債、建物に県産の木材を使用、サーキュラーエコノミーなどで補助金を活用）、新校舎の設計において教育方針である「自立」「協調とコミュニケーション」「郷土愛」を如何に育まれるようにするかのアイデア、開校後における事前予想との良い面と悪い面の両面の分析、旧学校敷地の利用方法などの説明を受ける。

・午前10時30分～午前11時30分 にじの丘学園

山の中腹にある緑豊かな（裏側は散策道に繋がっている）元中学校と市民公園の土地に建てた大学校舎のような施設を訪れ、現地での教育状況や新施設を見学しながら、説明を受ける。

■所感

にじの丘学園の新設に当たって、特に手をかけたのが、広域に及ぶ通学路の確保において、二路線の名鉄バスの存在と通学路の実地検分と修繕というのが印象に残る。

また、財源の確保においては、利用しないことになった校舎と敷地の売却益や起債もあるが、現代のSDGsなどの価値観に沿った「サーキュラーエコノミー（環境省）」「効率的エネルギー循環（文科省）」「愛知県産木材の使用（林野庁）」「武道館使用（スポーツ庁）」による各種補助金の活用もあり、財源確保に余念がない。

教育方針である、「自立」「協調とコミュニケーション」「郷土愛」を教員の指導マニュアル（小・中学校の教員で情報とノウハウの共有など）に記すほか、（大学の校舎に見える）校舎への瀬戸物用の窯（4年生時の学習に使用）の設置、校舎の入り口へのピアノの設置、教室や廊下への温かみのある木材の使用、全児童・生徒が登校時に昇降する、天井が高くて広い「みんなが集まってワイワイできる」多目的スペースとしての中央階段の設置、どの窓からも山の自然や裏庭を見られる「里山のような」視覚環境づくりなど、ずっといたくなる環境を肌にした。

これにより、児童・生徒はのびのびと友だちと会話し、遊び、学ぶことができ、9学年（中学3年生に相当）の生徒が兄弟のように小学生と接するようになったと聞いた。

この児童・生徒の姿、教育環境、新校舎、それに瀬戸市の新住宅整備と建売により、児童・生徒数が増えたというのもとても参考になる。

また、児童・生徒の悩みを聞くための個室を揃えているのも、インクルーシブの時代に合っていると感じる。

今回の視察で学んだことを、今後の市政への提言に生かしたいと思う。